

STAR

オフセットフレールモーア

取扱説明書 及び 部品表

製品コード
型

式

K43115

FSSMC-160

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、
部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIアグリテック

はじめに

このたびは、オフセットフレールモーア「FSSMC-160」をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本機は、弊社の豊富な経験と永年の研究成果として開発された機械です。

この機械の性能を十分発揮させ“安全で楽しい農作業”を行うために、この取扱説明書を熟読され、正しい取扱をしていただきますようお願い申し上げます。

尚、部品の注文をされる場合には必ず、本機のフレーム正面に貼ってあります本機銘板により、型式と製造番号を明示の上、部品表の番号で注文くださいますようお願い申し上げます。



印付きの下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。



その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告に従わなかった場合、けがを負う恐れのあるもの又は、製品の重大な破損をまねく恐れのあるものを示します。

この取扱説明書及び本機に貼ってあるステッカーは、補修部品として用意しています。
紛失したり、汚れて読めなくなった時は、新しいものと取替えましょう。

も く じ

取扱説明書

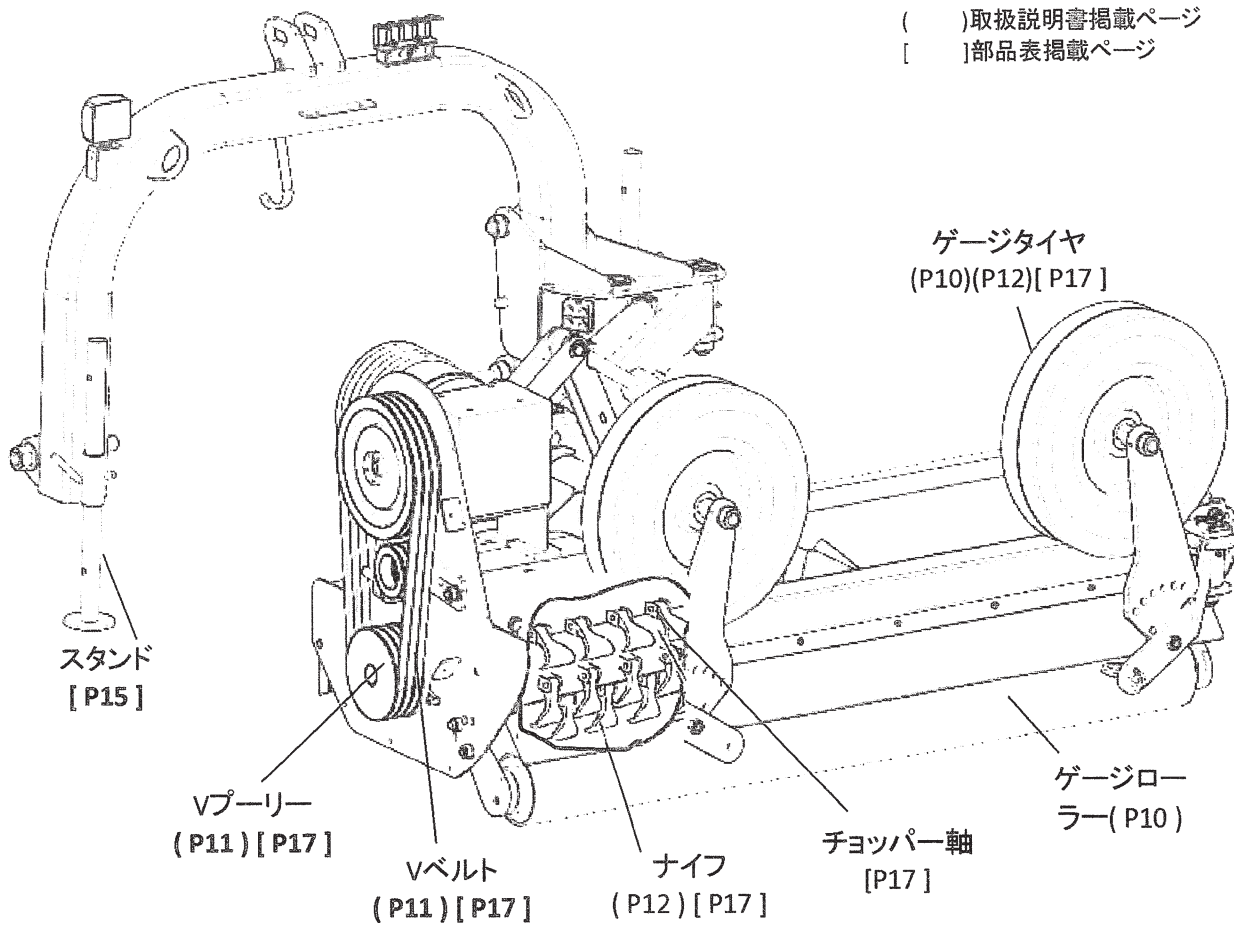
● 各部の名称と掲載ページ	2
● 安全について	
1. 安全心得	2
2. 仕業点検	3
● トラクタの取付け・取外し	
1. トラクタの点検	4
2. トラクタの取付け	4
3. P.T.Oジョイントの取付け	5
4. トラクタの取外し	5
5. P.T.Oジョイントの取扱い	6
● ご使用になる前に	
1. 作動確認	7
2. トラクタのバランス	7
3. 走行について	8
4. 路肩、畦端の作業について	8
● 操作心得	9
● 各部の調整と操作	
1. 刈り高さの調整	10
2. Vベルトの調整	11
3. Vプーリーの取外し	11
4. カッターナイフの交換	12
5. タイヤ幅の調整(オプション)	12
6. タイヤ固定の操作(オプション)	13
7. フロントフラップの交換	13
● 保守管理	
1. 日常の保管	14
2. グリスの補給	14
3. オイルの交換	14
4. 長期保管	14
● 仕様・諸元表	14
● 結び	14

部 品 表

1. ヒッチ・アーム部	15
2. ロータ・ゲージ部	17

各部の名称と掲載ページ

()取扱説明書掲載ページ
[]部品表掲載ページ



安全について

1.安全心得

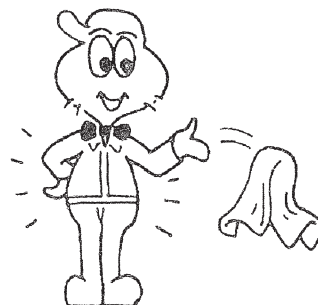
農作業の機械化が進むと共に、機械による事故も非常に多くなってきました。“安全で楽しい農作業”をするためにも次の注意事項をよく読んで常に安全に心掛けてください。



作業前に必ず取扱説明書をお読みいただき、正しくご使用ください。



体に合った服装をし、手ぬぐい等は身につけないでください。



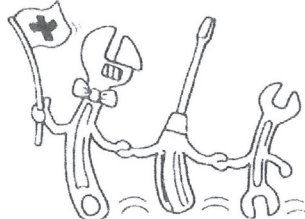
安全について



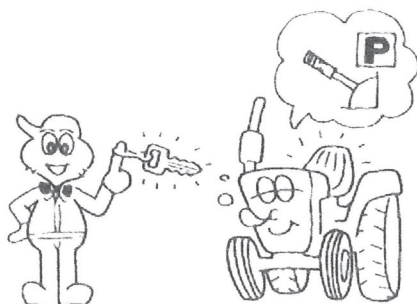
体調がすぐれない時や飲酒での作業はやめましょう。



仕業点検・整備は、安全作業の基本です。



作業機から離れる場合は必ずトラクタのエンジンを止めサイドブレーキを掛けてください。



作業機以外の人、特に子供は近づけないでください。



2. 仕業点検

点検整備は安全作業の基本です。作業前に毎日必ず行ってください。

[点検作業]

フレーム周り

- 1) 曲がり、亀裂、溶接のはがれの無いこと。
- 2) 塗装の割れが無いこと。(割れがあると、強い力がかかった証拠です)
- 3) ボルト・ナットの緩み、脱落の無いこと。

プーリー・ベルト部

- 1) ベルトの伸び、傷がないか点検すること。
- 2) Vプーリーの取付用アタッチメントに緩み、脱落の無いこと

ナイフ・ローター部

- 1) ナイフの脱落、割れの無いこと。
- 2) 取付ボルト・ナットの緩み、脱落の無いこと。
- 3) ローターに曲がり、亀裂、溶接のはがれの無いこと。
- 4) ベアリングに異常の無いこと。

カバー・ガード

- 1) 全て取付けて使用すること。

P.T.Oジョイント

- 1) 安全カバーを取付けて使用すること。
- 2) 回転防止チェーンを使用すること。

オイルの量

- 1) ミッション内のオイル量を確認すること。(約 1.2L)

トラクタの取付け・取り外し

1. トラクタの点検

本機に取付ける前に、必ずトラクタの点検を行ってください。

(1) トラクタの大きさ

本機を使用できるトラクタの大きさは、51kw (70PS)以上です。これ以下のトラクタでは使用してはいけません。
※ 51kw (70PS) 以上のトラクタでも、機種によってはフロントウェイトが必要です。

(2) トラクタの仕業点検

取付前にトラクタの取扱説明書を良く読み、仕業点検を行ってください。

(3) ロアリンクの点検

本機とトラクタの装着はロアリンクとトップリンクです。
ロアリンクは大リンク(Ⅱ型)専用です。

2. トラクタの取付け

トラクタの取付けは< 図1-1 >を参考にしてください

(1) トラクタのロアリンクを本機取付位置に合わせながら静かにバックします。

(2) トラクタのエンジンを止め、サイドブレーキを掛けます。

(3) 本機のロアリンクピンに取付けし、リンチピンで抜け止めをしてください。

(4) トップリンクを取付けます。
(ピンは本機に付属していません)

(5) 本機を持ち上げ振れ止めを調整してください。

(6) 油圧ホース4本(複動2系統)を取付けます。

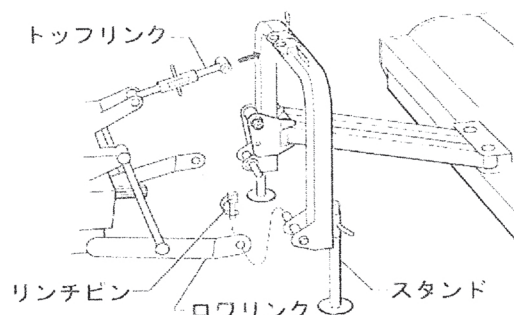
(7) スタンドを上げてください。

(8) ロックピンを外し、Aに格納します。< 図1-2 >

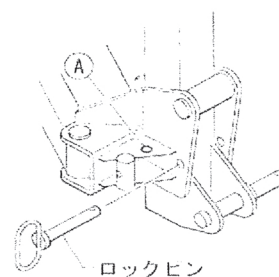
(9) P.T.Oジョイントをつないでください。

(10) 本機がトラクタの中心に合っているかを確認します。
(振れ止めで調整)

(11) ドローバーが垂直になっているか確認します。
(トップリンクで調整)



< 図1-1 >



< 図1-2 >



注意

作業中は必ずロックピンを外してください。
ロックピンを取付けたまま作業をすると、障害物があった時に本機が破損する恐れがあります。

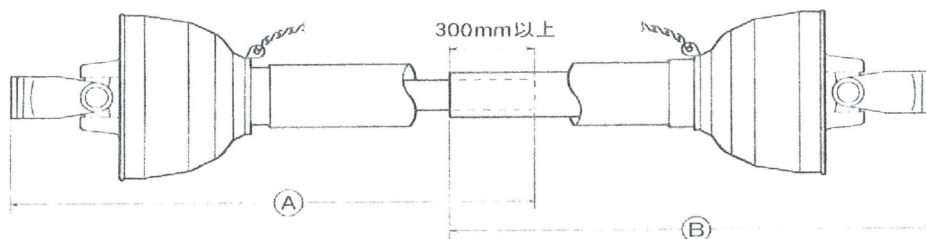
トラクタの取付け・取り外し

3. P.T.Oジョイントの取付け

本機装着後、トラクタの油圧昇降レバーで本機を上下し、トラクタのP.T.O軸と本機の入力軸間の最小寸法、最大寸法を測定します。

その最小寸法でP.T.Oジョイントの底突きがなく、最大寸法でオス、メスの重なり代が300mm以上になるようにジョイントの長さを調整してください。

レモンチューブを切断しつめた際は、バリをヤスリ等で取り、グリスを塗布してください。



・標準品は①が1340mm、②が1340mmです。

< 図2-1 >



危険

安全カバー、回転防止チェーンは必ず使用してください。
破損しているものは新しいものと取り換えてください。
カバー、回転防止チェーンを使用しなかったり、破損したまま使用すると、巻き込まれ死傷する危険があります。

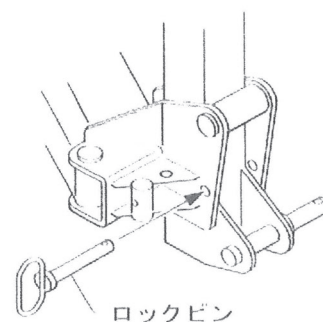


注意

◆ロックピンが確実に作動したか確認してください。
◆ジョイントが長すぎると、スプライン軸又は入力部を破損することがあります。

4. トラクタの取り外し

- (1) ロックピンを元の位置に戻してください。 < 図2-2 >
- (2) スタンドを下げて本機のを降ろします。
- (3) トラクタのエンジンを止め、サイドブレーキを掛けます。
- (4) P.T.Oジョイントを外してください。
- (5) 油圧ホースを外します。この時、油圧レバーを操作し圧力を抜いてください。
- (6) トップリンク、ロアリンクを外し静かに前進します。



< 図2-2 >

トラクタの取付け・取り外し

5. P.T.Oジョイントの取り扱い

1. ジョイントの取付けは確実に行ってください。
ジョイントの取付が不完全な場合、ジョイントが外れ、接合部を破損させる恐れがあります。
2. ジョイントの接合部を地面に落とすと、接合部を破損させる恐れがあります。
接合部は重たいですので十分注意して取り扱ってください。
3. 取付けるトラクタによりヘッドのシフト状況や、角度でジョイントカバーが擦れ、傷がつく恐れがあるため操作に注意してください。



ジョイントが確実に接続されていない場合、ジョイントが外れ、接合部が落下し足を怪我する恐れがありますので注意してください。



ジョイントが確実に接続されていない場合、ジョイントが地面に落下し、機械を破損させる恐れがありますので注意してください。

【MEMO】

ご使用になる前に

1. 動作確認

- (1) トラクタの取付けが終わりましたら周囲の安全を確認して、トラクタのP.T.Oを低回転で回してください。
- (2) 異音、振動等がないかを確認してください。
- (3) 異常がなければ徐々に回転を上げ、異音、振動等が出ないか確認しながらP.T.O回転 540rpmまで上げていきます。
- (4) 次にエンジン回転を下げ、油圧を操作します。
この時、ジョイントがドローバーにぶつからないか、油圧ホースが引っ張られたりしないかを確認します。
- (5) 確認が終わったらエンジン回転を1000rpm以下にしてP.T.Oを止めます。
- (6) 異常が認められた場合は、直ちにP.T.O及びエンジンを止め、点検してください。



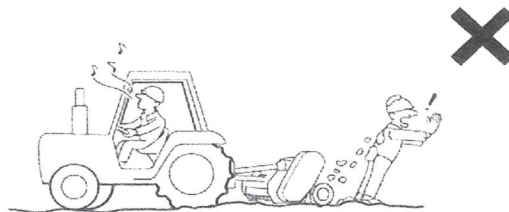
作動させる際は、周囲(特に前方・後方)50m以内に人がいない事を確認して行ってください。
石、砂利等が飛ぶことがあります危険です。



振動が大きな状態で使用しますと、機械を破損します。
刃の脱落や、折れ等がある場合は新しい刃を取り付けて使用してください。



トラクタによってヒッチとジョイントがぶつかる場合があります。
その場合はスライドシリンダを少し戻して、ぶつからない位置で作業を行ってください。



- ◆P.T.OのON/OFFはエンジン回転1000rpm以下で行ってください。
高回転で行うと機械を破損します。
- ◆P.T.O回転を540rpm以上にしないでください。破損の恐れがあります。

2. トラクタのバランス

45kw(60PS)以上のトラクタでも、種類によってはフロントウェイトが必要な場合があります。
本機を取付け走行した際、ハンドルがフワフワしたり、方向転換がしづらい場合は必ずフロントウェイトを付けてください。

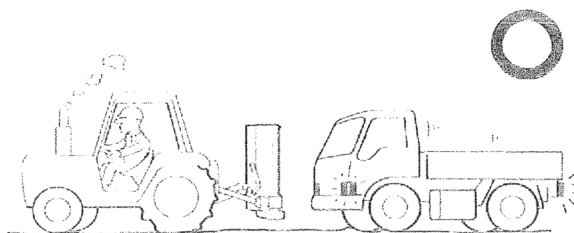


不安定な状態での使用は、転倒事故等の原因となりますので、お止めください。

ご使用になる前に

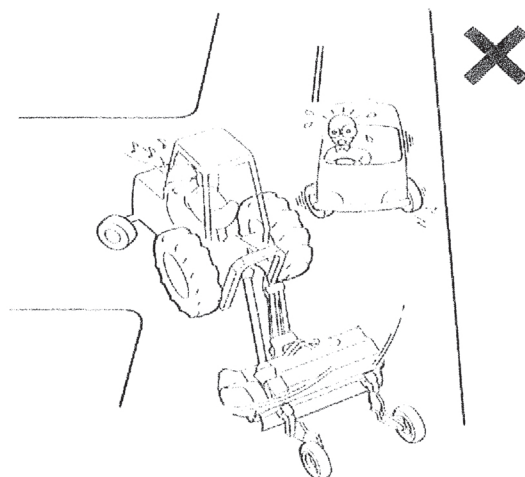
3. 走行について

走行や回送時は本機をトラクタに近づけて垂直に格納し事故を未然に防ぐよう、昼夜を問わず後続に伴走車を付けてください。



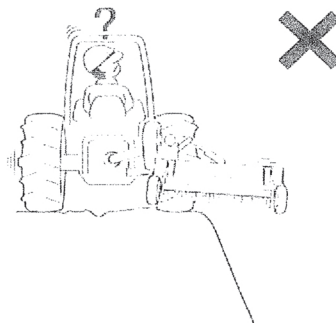
◆格納せずに走行すると、旋回時に本機がふくらみ対向車線にはみ出す事がありますので注意してください。

◆凹凸路面、軟弱地、傾斜地、取り付け道路の乗り越え、路肩等の走行は細心の注意を払ってください。注意を怠ると、トラクタの横転などの重大事故につながる恐れがあります。



4. 路肩、畦端の作業について

路肩・畦端での作業時は端に寄りすぎないようにしてください。



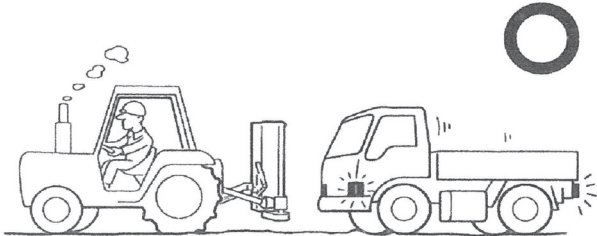
路肩・畦端での作業時は、端に寄りすぎて走行すると転倒、転落の恐れがあるので注意してください。

操作心得



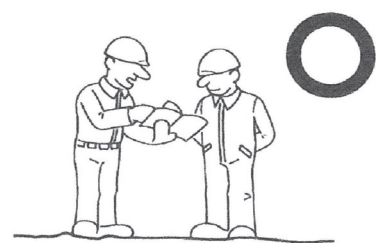
道路等を走行する際は、昼夜を問わず必ず伴走車を付けてください。

後続車の追突を未然に防ぎます



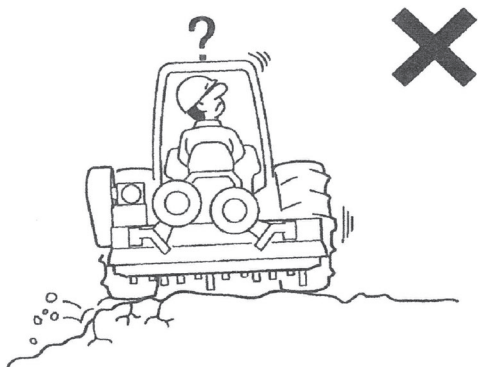
操作に未熟な人や、他人に貸し出す時は、使い方を説明し、取扱説明書を読むように指導してください。

不適切な人の運転は事故につながります。



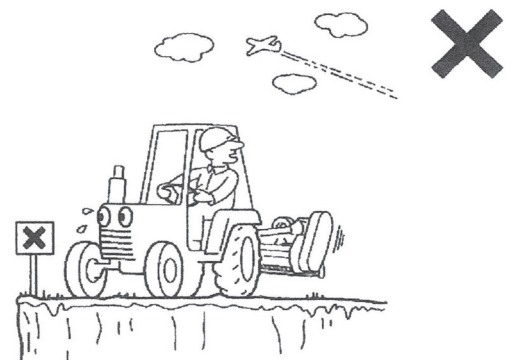
軟弱地盤や路肩、障害物はなるべく避け、また急激な油圧操作はやめましょう。

バランスをくずし、トラクタの転倒事故の原因につながります。



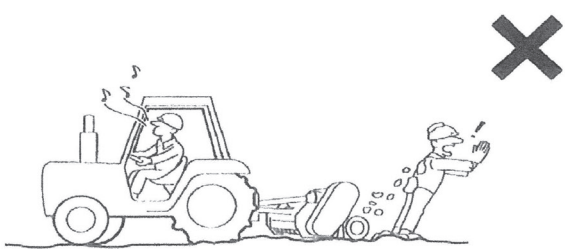
わき見運転や、ながら運転はやめましょう。

思わぬ事故を招きます。



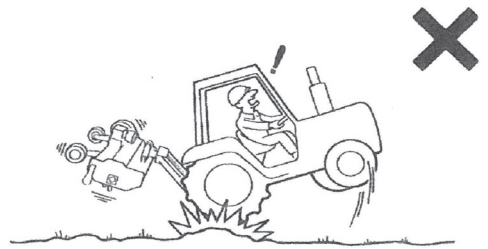
回転させる時や作業中は前方・後方50m以内に人がいないことを確認してください。

石、砂利等が飛ぶことがあり大変危険です。



障害物はなるべく避けましょう。

機械の破損やトラクタの転倒事故の原因になります。



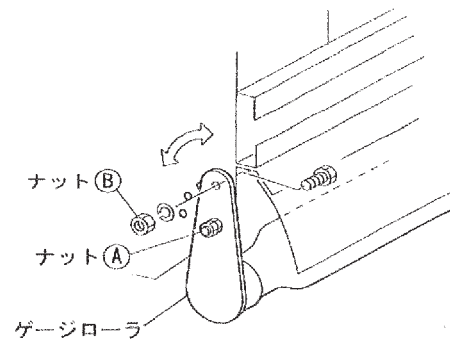
各部の調整と操作

1. 刈り高さの調整

好みの刈り高さにするために下記の調整を行います。

ゲージローラー

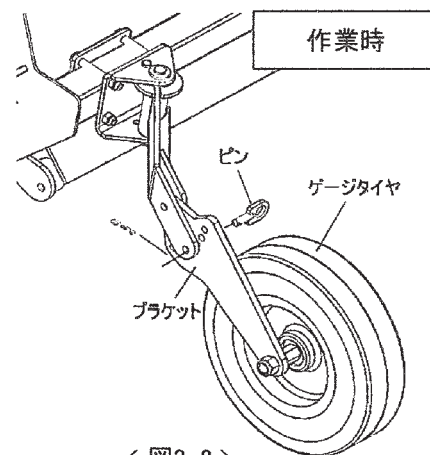
- (1) ナットAを緩めます。
 - (2) ナットBを外し、ゲージローラーの高さを調整する穴へボルトを入れ替えます。
 - (3) ナットA,Bをしっかり締めます。
- < 図3-1 >



< 図3-1 >

ゲージタイヤ (オプション)

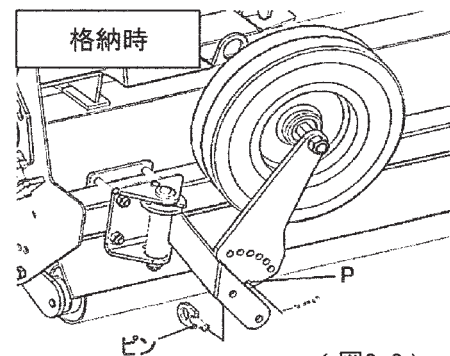
- (1) 圃場に入り本機を下げます。
 - (2) 本機が水平で作業できる様ピンを差し替えてタイヤの上下を調整してください。
- < 図3-2 >
- (3) 数m位作業し、刈り高さを確認してください。
 - (4) 刈り高さが決まりましたら、トラクタのロアリンク調整レバーを下げ側で、一定の位置に止まる様にしてください。



< 図3-2 >

※ゲージタイヤを使わない場合は、ブラケットの穴がPの位置に来るまで持ち上げ、ピンを入れてください。

< 図3-3 >



< 図3-3 >



- ◆調整中は、P.T.Oを切りエンジンを止め駐車ブレーキをかけてください。回転中の調整は危険です。
- ◆周囲(特に後方)に人がいない事を必ず確認してから作業してください。石、砂利等が飛ぶことがあります大変危険です。



作業中のP.T.O回転は540rpm以下にしてください。回転を上げすぎると破損する恐れがあります。

各部の調整と操作

2. Vベルトの調整

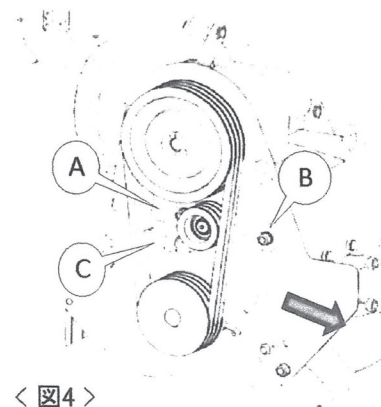
Vベルトが伸びてくると動力の伝達が悪くなりスリップの原因となります。点検は毎日おこなってください。

- (1)ボルトA,Bを緩めてください。
- (2)ボルトCを緩めると<図4>矢印方向にプーリーがスライドし、Vベルトを張っていきます。
- (3)Vベルトが張り終わりましたら、ボルトA,Bを締めてしっかり固定してください。
- (4)Vベルトの交換は、PTOジョイントを外して手で回してください。

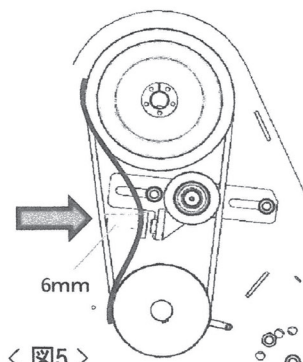
※ Vベルト交換時、絶対にプーリーとVベルトの間に指を入れないでください。挟み込みケガを負う恐れがあります。

※²Vベルトの張り具合は、プーリー間の中心を24.8N (2.5kgf)で押した際のたわみ量が6mm程度になるようにテンションを調整してください。

<図5>



<図4>



<図5>



◆調整中は、P.T.Oを切りエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

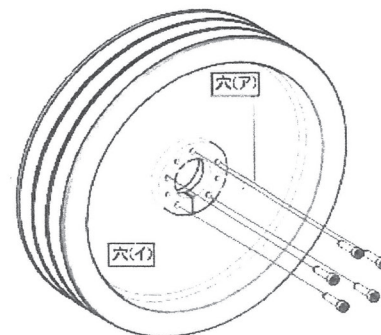
3. Vプーリーの取り外し

本機のVプーリーは、通常の取り付けとは異なるイソメックブッシングを採用しております。

- (1)穴(ア)からすべてのセットボルトを外します。
- (2)穴(イ)3か所にボルトを入れ、締めます。

ボルトがジャッキの役目をし、プーリーとアタッチメントが簡単に外れます。

・取り付けはこの手順を逆におこないますが、穴(ア)のセットボルトは交互に少しずつ一様に締め付けてください。



<図6>

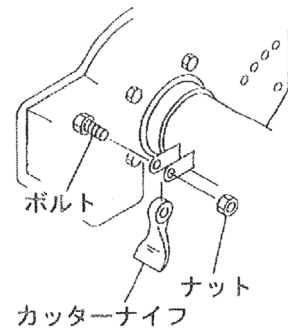


- ◆調整中は、PTOを切りエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
- ◆不均一な締め付けは振動や外れることの原因となります。
- ◆取り付ける時はブッシングとプーリー、軸のゴミをきれいに取り除いてください。ゴミが付着していると取り付け不良の原因となります。

各部の調整と操作

4. カッターナイフの交換

カッターナイフが摩耗して交換する場合は必ず全ての
カッターナイフを交換してください。
また、脱落したり割れたりするなどして一部のみ交換
する場合には、新品のナイフをサンダーでけずり、
他のナイフと同じ重量にしてください。



< 図7 >



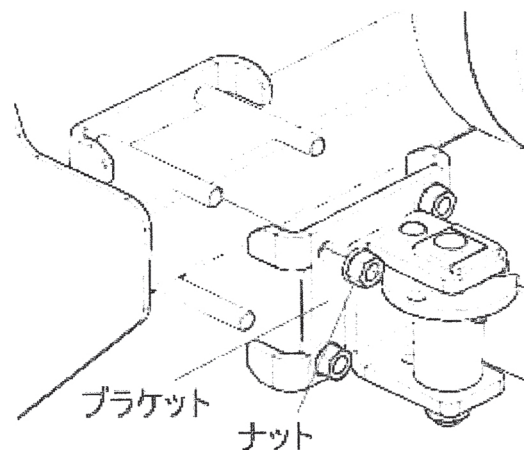
- ◆必ずP.T.O回転及びエンジンを停止してから交換を行ってください。
回転を止めずに作業を続けると、機械に巻き込まれる恐れがあり、大変危険です。
- ◆一部だけを交換したり、重量バランスを取らない場合、振動が大きくなり機械の破損につながります。
- ◆カッターナイフの交換時はボルトの締め忘れに十分注意し、必ず締めたか確認をしてください。
- ◆カッターナイフが脱落していると刈残しができます。

5. タイヤ幅の調整(オプション)

出荷時は2尺4寸に合わせてあります。

タイヤ幅を変える場合は、左右のブラケットの
取付ナットを4本すべて緩め、所定の位置に
ブラケットをずらしします。
位置が決まれば、取付ナットを締めてください。

< 図8 >



< 図8 >

各部の調整と操作

6. タイヤ固定の操作(オプション)

タイヤを固定する場合

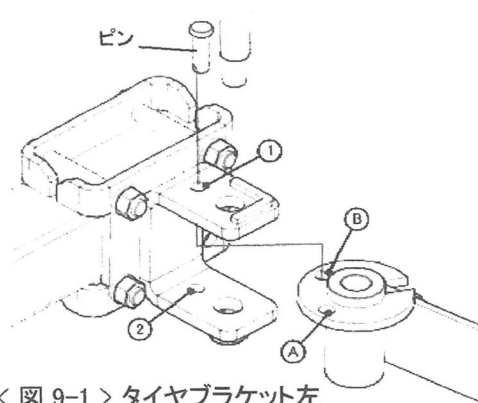
(1)作業時

①の穴とAの穴を合わせてピンを入れロックしてください。

(2)格納時

①の穴とBの穴を合わせてピンを入れロックしてください。

< 図 9-1 >

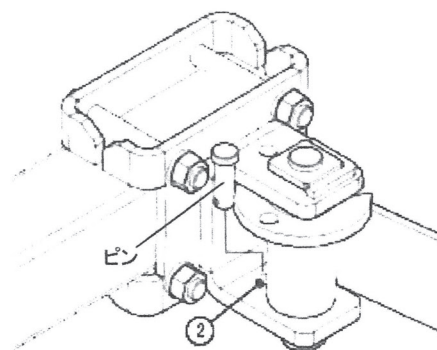


< 図 9-1 > タイヤブラケット左

タイヤをフリーにする場合

ピンを②の穴に入れてください

< 図 9-2 >



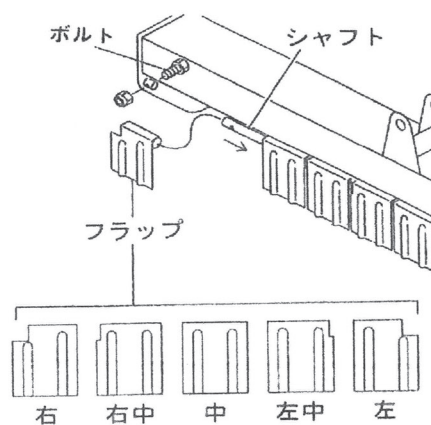
< 図 9-2 > タイヤブラケット左



- ◆作業中はP.T.O及びエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて輪止め等でしっかりと固定してください。
- ◆ロアリンクが下がらないようにロックして下さい。

7. フロントフラップの交換

- (1) フラップを取り付けているボルトを外してください。
- (2) シャフトを抜き、破損したフラップを外して新しいフラップと交換してください。
- (3) シャフトを入れてボルトで固定してください。



< 図 10 >

保守管理

機械の寿命を永く保つためには日頃の保守管理が大切です。
次の事項をよく読んでこの機械と長いお付き合いをしてください。

1. 日常の保管

- ・作業終了後は各部に付着した、土や茎葉を取り除き掃除してください。
- ・屋外に置く場合は覆いを掛けてください。

2. グリスの補給

- ・ピローブロックへの給油は、1シーズン1～2回を目安に実施してください。
- ・タイヤへの給油は週に1～2回、その他の箇所は10日に1回程度実施してください。
- ・軸受部は1シーズンに1～2回実施してください。
- ・ステッカー表示のある箇所は、ステッカーの指示に従い実施してください。

3. オイルの交換

- ・ミッションのギアオイルは 90# 相当を約1.2ℓ です。
- ・最初の1年目で交換以降は、2シーズンに1回交換してください。

4. 長期保管

- ・本機全体を洗浄し、土・茎葉を取り除いてください。
- ・給油部のグリスアップ、オイル交換を忘れずに実施してください。
- ・ローラーチェーンにグリスを塗布してください。
- ・部品が消耗していたり傷んでいた場合、次期シーズンに備え交換、整備を実施してください。
- ・格納は湿気の少ない風通しの良いところでしてください。

仕様・諸元表

名	称	オフセットフレールモーア
型	式	FSSMC-160
装	着	直装式
大 き さ	全 長 (mm)	1,640
	全 幅 (mm)	1,790
	全 高 (mm)	1,065
	重 量 (kg)	460
機 構	作 業 幅 (mm)	1600
	タ イ ヤ サ イ ズ	5.00-8 4PR
性 能	ロ ー タ ー 回 転 数 (rpm)	2,480 ※1
	適 応 ト ラ ク タ (kw)	45(60PS)～
	処 理 能 力	40～90a/1時間 ※2

※1 P.T.O回転540rpm時

※2 圃場条件等により変わる事があります。

◎本仕様は改良の為予告なく変更する場合があります。

仕様・諸元表

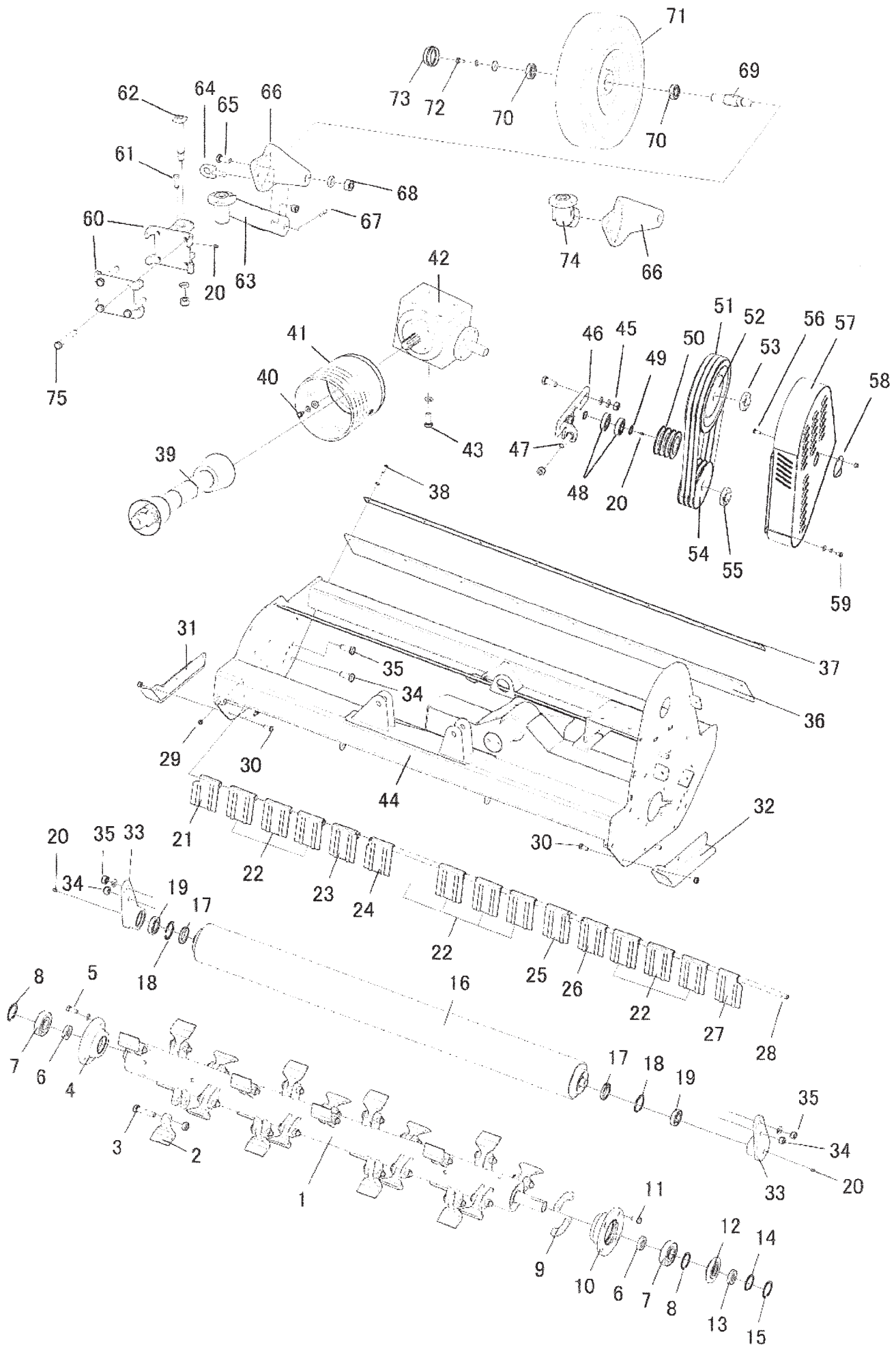
本機を長時間、安全、有効に使用いただき、少しでもお役に立つために、この取扱説明書を作成しましたが、まだまだ説明不足の点が多くあると思われます。本書にて理解出来ない事につきましても、御遠慮なく当社へ連絡ください。専門技術員が説明申し上げます。

部品表

1.ヒッチ・アーム部

番号	部品名	規格	摘要	図面	個数	備考
1	ヒッチ			H035	1	左列仕様 H035L
2	シリンダピン	φ 32×69		J84702	1	
3	スタンド(左)			H77207	1	
4	スタンド(右)			H77208	1	
5	リンチピン	φ 4			2	
6	グリスニップル	M6B			6	
7	スタンドピン	φ 12×160		J835	2	
8	ロックピン	φ 20×156		J863	1	
9	アームブラケットピン	φ 35×169		J852	1	
10	ナット	M27	SW付		2	
11	リンチピン	φ 10			1	
12	アームピン	φ 30×173		J850	4	
13	ブッシング	1/4×1/2			4	
14	カプラ	1/2 オス			4	
15	ゴムホース	1/4×3500	1-4		2	
16	シリンダー	φ 25× φ 45×270		7-045-25-0270-5798	1	チェックバルブ付
17	アダプタ	UL90-1/4			2	
18	アーム(右)			T251	1	左列仕様 T251L
19	アーム(左)			T252	1	左列仕様 T252L
20	グリスニップル	M6A			4	
21	ゴムホース	1/4×2450	1-4		2	
22	ボルト	M16×40	SW付		2	
23	フタ			B270	1	
24	ドライバアリング	MB7550DU			2	
25	アームブラケット後			T254	1	左列仕様 T254L
26	シリンダーアームピン	φ 22×128		J849	1	
27	ナイロンナット	M16	平W付		1	
28	回転アーム			B268	1	
29	シリンダピン	φ 32×83		J84705	2	
30	Eリング	E-19			5	
31	シリンダステー			B269	1	左列仕様 B269L
32	アームブラケット前			T253	1	左列仕様 T253L
33	シリンダー	φ 25× φ 55×200		73833	1	チェックバルブ付
34	ジョイント受け			B389	1	左列仕様 B389L
35	ボルト	M10×30	平W,N付		1	
36	ロワリンクピン	φ 50×238		J851	2	
37	座金	φ 52		N10703	2	
38	ホース留め金具			B40608	1	
39	取扱説明書入れ	AA/101			1	
40	ボルト	M8×25	平W,SN付		2	
41	アダプタ	SSO-13-1/4			4	
42	ボルト	M6×35	SW,平W付		2	
43	配管クランプ				6	
44	バックランプ				1	
45	ナット	M24	SW,平W付		5	

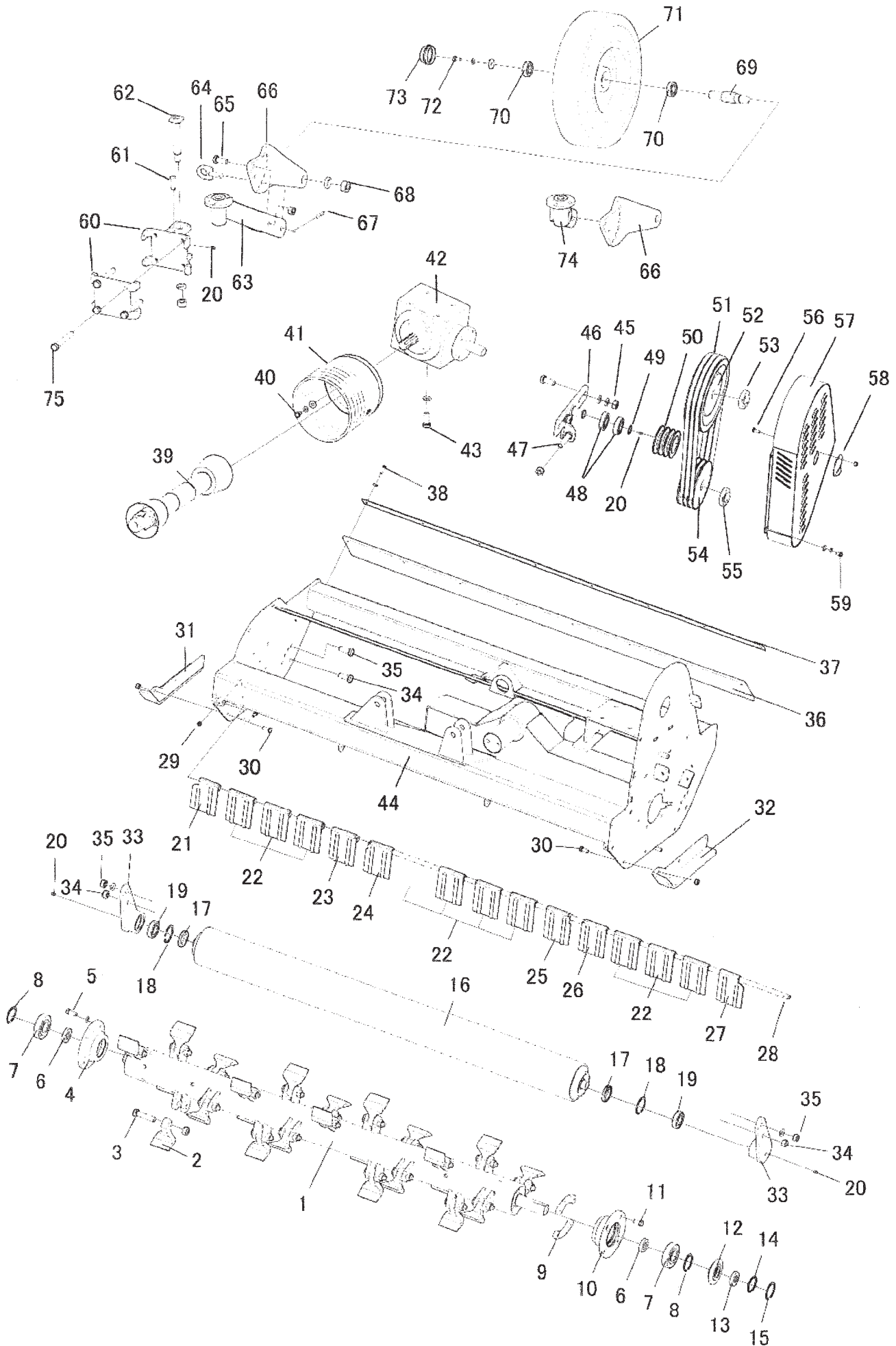
2.ロータ・ゲージ部



2.ロータ・ゲージ部

番号	部 品 名	規 格	摘 要	図 面	個数	備 考
1	チョッパー軸			J41802	1	
2	カッターナイフ				24	
3	HTボルト	M16×70 P1.5	NN付		24	
4	軸受け右			B40512	1	左列仕様:B40512L
5	ボルト	M12×20			4	
6	オイルシール	507212			2	
7	ボールベアリング	1308			2	
8	スナップリング	H-90			2	
9	座金			B40514	2	
10	軸受け左	M16×70 P1.5		B40510	1	左列仕様:B40510L
11	六角穴付皿ボルト	M12×25			4	
12	オイルシールケース			B40517	1	
13	オイルシール			405610	1	
14	スナップリング	H-56			1	
15	スナップリング	H-95			2	
16	ゲージローラー			J33110	1	
17	オイルシール	40628			2	
18	スナップリング	H-62			2	
19	ボールベアリング	6206			2	
20	グリスニップル	M6A			5	
21	ガード(右)			B32708	1	
22	ガード			B32704	10	
23	ガード(右中)			B32710	1	
24	ガード(右中)			B32706	1	
25	ガード(左中)			B32705	1	
26	ガード(左中)			B32709	1	
27	ガード(左)			B32707	1	
28	ガード軸	φ 15×1652		J35802	1	
29	HTボルト	M6×40	NN付		2	
30	ボルト	M10×25	SN付		6	
31	ガード(右)			B32102	1	
32	ガード(左)			B32101	1	
33	ゲージローラーブラケット			H78101	2	
34	ボルト	M16×40	NN付		2	
35	ボルト	M16×40	SW,N付		2	
36	ゴム板	3P×150×1640		R262	1	
37	ゴム座金			B40605	1	
38	ボルト	M6×20	SW付		8	
39	ユニバーサルジョイント	W57166GGC10C10		1	1	BENZI
40	ボルト	M10×15	SW,W付		4	
41	入力軸カバー			N08702	1	
42	ミッション	GS24000139			1	
43	HTボルト	M16×30	SW付		4	
44	メインフレーム			A05700	1	左列仕様:A05700L
45	ナット	M16	W,SW付		2	
46	テンションステー			B40614	1	
47	ボルト	M16×80	N付		1	
48	ボールベアリング	6206Z			2	
49	スナップリング	S-35			1	
50	Vプーリー			S604B301	1	
51	Vベルト	5VX-560			3	
52	Vプーリー	SPB-265-3-φ 65.8			1	
53	ロックデバイス	P.M LOCK8 33×65			1	
54	Vプーリー	SPB-265-3			1	
55	ロックデバイス	P.M LOCK8 40×65			1	
56	ボルト	M8×25	NN付		1	
57	プーリーカバー			K47405	1	
58	フタ			K16005	1	
59	ボルト	M8×15	SW,W付		4	
60	タイヤフレームブラケット			H78026	2	オプション

2.ロータ・ゲージ部



調 整

S - 2 4 0 3 3 1 D

千 歳 本 社 066-8555 千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千 歳 営 業 所 066-8555 千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

豊 富 営 業 所 098-4100 天 塩 郡 豊 富 町 字 上 サ ロ ベ ッ 1 1 9 1 番 地 4 4
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯 広 営 業 所 080-2462 帯 広 市 西 2 2 条 北 1 丁 目 1 2 番 地 4
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

中 標 津 営 業 所 086-1152 標 津 郡 中 標 津 町 北 町 2 丁 目 1 6 番 2
TEL 0153-72-2624
FAX 0153-73-2540

花 巻 営 業 所 028-3172 岩 手 県 花 巻 市 石 鳥 谷 町 北 寺 林 第 1 1 地 割 1 2 0 番 3
TEL 0198-46-1311
FAX 0198-45-5999

仙 台 営 業 所 984-0032 宮 城 県 仙 台 市 若 林 区 荒 井 5 丁 目 2 1 - 1
TEL 022-353-6039
FAX 022-353-6040

小 山 営 業 所 323-0158 栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

東 海 営 業 所 485-0081 愛 知 県 小 牧 市 横 内 字 立 野 6 7 8 - 1
TEL 0568-75-3561
FAX 0568-75-3563

岡 山 営 業 所 700-0973 岡 山 県 岡 山 市 北 区 下 中 野 7 0 4 - 1 0 3
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊 本 営 業 所 861-8030 熊 本 県 熊 本 市 東 区 小 山 町 1 6 3 9 - 1
TEL 096-389-6650
FAX 096-389-6710

都 城 営 業 所 885-1202 宮 崎 県 都 城 市 高 城 町 穂 満 坊 1 0 0 3 - 2
TEL 0986-53-2222
FAX 0986-53-2233